

## 「住宅居住者の健康調査」へのご協力をお願い

財団法人建築環境・省エネルギー機構  
住宅研究部

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、財団法人建築環境・省エネルギー機構では、この度、健康維持増進住宅研究委員会（委員長：村上周三（独）建築研究所理事長）の研究活動の一環として、インターネットによる「住宅居住者の健康調査」を実施することとなりました。

「健康維持増進住宅研究委員会」とは、住宅や地域の健康環境品質を向上し、生涯健康・生涯現役を実現するための新たな住宅環境やコミュニティのあり方について検討するため、国土交通省住宅局の支援の元に平成 19 年 7 月に設置された委員会です。建築学、医学、生理学、化学などの垣根を越えて、関連する産・学・官の協力体制のもとに、健康維持増進を実現する住宅に関する研究を行っています。

住宅の性能の向上は、健康維持増進にも大きな効果があるものと期待されています。高断熱化することにより、住まいの寒さ感が大幅に改善されること、健康障害の多くが現れなくなることが示されてきています\*が、その効果を定量的に示すためのデータはまだ十分ではありません。そのため、今回、住宅の種々の性能向上による健康増進影響度を科学的に実証することを目的として、インターネットによる大規模な調査を実施することとしたものです。

つきましては、ご多用中誠に恐縮でございますが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力賜りますようお願いいたします。

本調査は、「2003 年以降に戸建ての新築住宅に転居された方」を対象としております。調査は、かつて住まわれていた住宅と、現在の住宅でどのような健康面での変化があったかについて調べることが主になっております。具体的には、次ページの手順でインターネットを通じてご回答ください。

皆様のお答えが、明日の日本の住宅の改善を進める大きな原動力となります。調査対象に該当される皆様方には、何とぞよろしく御願いたします。

敬具

※ 過去 5 年～過去 1 年間に転居した 2400 名を対象とした「住宅居住者の健康調査」（2008 年安全な住環境に関する研究会）によると、気管支ぜんそくやかぶれなど健康障害の多くについて高断熱住宅に転居したことにより症状が改善しているという結果が得られています。

<お問合せ先>

財団法人建築環境・省エネルギー機構

住所：〒102-0083

東京都千代田区麴町 3-5-1 全共連ビル麴町館

電話： 03-3222-6681

担当部署：住宅研究部